

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475500821
法人名	株式会社 愛誠会
事業所名	はなまるホーム有馬
訪問調査日	平成20年9月16日
評価確定日	平成20年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1475500821
法人名	株式会社 愛誠会
事業所名	はなまるホーム有馬
所在地	216-0002 川崎市宮前区東有馬5-21-24 (電話)044-870-6299

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年9月16日
評価確定日	平成20年10月31日

## 【情報提供票より】(平成20年9月7日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤 11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 13.7 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	円		

### (4)利用者の概要(9月7日現在)

利用者人数	17 名	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名	
要介護3	6 名	要介護4	3 名	
要介護5	2 名	要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 97 歳	

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 山本記念病院、やまびこクリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの経営は(株)愛誠会である。愛誠グループは全国に薬局を展開して来たが、近年アイセイ薬局と並列企業の(株)愛誠会では埼玉のデイサービス、静岡を含め4ヶ所のグループホーム(あと1ヶ所千葉に開設予定)を展開している。また同じく並列企業の社会福祉法人では身体障害者施設、福祉作業所を展開しており医療・福祉に強みを持っている。もと同系列から独立した(株)REPRANAのマッサージや、山本記念病院系列のやまびこクリニックからの往診とPTによる訪問リハが訪問し利用出来るようになっている。医療連携加算は設定当初から認定を受け、ターミナルケアに関してはご家族に説明し、希望される方からは同意書を頂いて対応を実施している。ターミナルケアなど自力入浴が難しくなった方への対応として、1Fの浴室には機械浴設備を設置している。介護計画の見直しについても必ず看護師が同席するなど医療面での対応の良さが目立っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長が最近変更となったので新施設長としての改善をお聞きした。新施設長として重点を入れて取り組もうと考えていることはご家族との情報の共有である。その手始めとして中断していた「はなまる通信」をリニューアルして再開することとした。新「はなまる通信」は文章を少なくし、写真中心の組み立てとする。守秘については写真掲載の同意とご家族限定の配布を考えている。ご家族に喜びの表情をお伝えしたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、施設長の交代があったので、外部評価に先立ち、新たに自己評価をするに際し1F,2Fフロアの主任と相談し、引継ぎや内部確認を兼ねながら新施設長として作成した。出来たものを職員に示し、ミーティングで意見を聞き、最終の纏めをした。外部評価のプロセスに於ける気付きや指摘事項については改善計画を立てて改善に取り組むこととしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については施設長の交代のため、交代のタイムラグから開催の間が途切れており、メンバーとの連携も疎遠になっているので、再度構築すべく取り組みを開始している。自治会活動が見えにくい地域で、商店会との関係では会員で、入り口に会員証が貼ってあり、関係も深い。建物のオーナーは地元の人であり、オーナーにお願いして自治会、商店会、老人会の中から地域代表で参加してもらおう予定。併せて再度、民生委員、地域包括支援センターとの連携を取って行くことにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族には縁の遠い人も多いが、その方を除けば良く訪問してくれている。またあるご家族の娘さんがボランティアとして歌を歌いに来てくれたりしている。意見、苦情などへの対応では投書箱を置いている。人手が必要な時にはご家族や他ユニットの協力体制が出来ている。昨9月15日にホームとしての敬老会をご家族を交えて実施し楽しんで頂いた。また、前述の如く「はなまる通信」をリニューアルして再開する予定である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着の例で、地域の方が入所され、その友人の方が訪ねてくるようになった。ご近所との双方向の交流が根付くことを期待している。ボランティアでは毎月のファゴット演奏に来て頂いている他、年数回レベルでフラダンスやドックセラピーの方が来て頂いている。食事は自主メニューで地元商店を活用している。財産管理などでは地元社協のお世話になっている。有馬団地(古い市営団地)、東有馬商店会、一般住宅が混在する地域なので、運営推進会議を手がかりに少し広い範囲の交流を考えて行きたい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	企業、ホーム全体の理念及び各フロアで方針を持っている。地域に開かれた施設を目指し、地域との交流を図るように努力している。		今後、運営推進会議等を通じて地域との連携を深めて行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念、事業所理念を掲示して理念の共有を図るようにしている。更に「事業所理念に基づき各フロアそれぞれの方針を決めている。	○	常に理念、方針を実践できるようにスタッフ一同で努力して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟して、地域の行事の情報を集め、地域の行事に参加するようにしている。	○	今まで以上に地域行事に参加できるように、近隣の方との交流を増やして行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を知ること、取り組む内容、課題を明確にし、外部評価のプロセスに於ける気付きや指摘事項については改善計画を立てて改善に取り組むこととしている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催してきたが、施設長の交代のため、交代のタイムラグから開催の間が途切れており、メンバーとの連携も疎遠になっているので、再度構築すべく取組みを開始している。	○	運営推進会議の再度構築の取組みを実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	神奈川県や川崎市のメールリストに登録し、できるだけ多くの情報を得るようにしています。研修等の案内には、できるだけ参加するようにしたいと考えている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態、金銭管理、職員の移動等について報告している。金銭管理については、定期的に報告を行っている。あるご家族の娘さんがボランティアとして歌を歌いに来てくれたりしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情等を聞き、スタッフ全体で速やかに解決するようにしている。また、家族等ともよく話し理解を進めていただくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の維持のために、スタッフの移動については最小限になるよう努めている。管理職は、スタッフとのコミュニケーションに努め、離職に繋がらないように努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップや昇進のために必要とされるスキルを身につけてもらうため、積極的に研修を受けてもらうようにしている。外部研修の案内を掲示している。	○	職員が気兼ねなく研修に参加できる環境を整えて行きたいと考えている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹施設が近隣にあり、情報交換や職員の交流を行うようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居等を行いサービスに理解をして頂いてから入居して頂くようにしている。医療・福祉に強みを持っており、憐愛誠会では埼玉のデイサービス、静岡を含め4ヶ所のグループホーム(あと1ヶ所千葉に開設予定)を展開しているので有機的活用を進めていきたい。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人のできることを把握し、グループホーム内でも行えるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の暮らし方の希望、意向を把握するように努めている。また、コミュニケーションを密にとることで、意向をスタッフに話かけやすい雰囲気を作るように心がけている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の生活上の課題、希望等をご本人や御家族と話し合い、具体的に実行していくために介護計画を見直し、作成している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれずに、ご本人の状態の変化に常に対応した計画書を作成するように努めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内の他のサービス(デイサービスなど)のよいところを取り入れたりして、より多機能性を備えるように努力し、多様で柔軟な支援が可能となるように努力している。もと同系列から独立した㈱REPRANAのマッサージも活用している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山本記念病院の系列のやまびこクリニックと契約し、月に2回受診している。また、入院の必要があるときは、母体の山本記念病院に入院可能な限り受け入れていただく体制をとっている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化が予想された段階で、今後の方針についてご家族や医師と話し合いを始め、重度化した場合の対応を始めるようにしている。方針については、カンファレンスを行い共有化を進めている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけをする際は、プライドを傷つけないように注意している。また、声かけをする場所についても、話の内容によって場所を居室で行うなどプライバシーに配慮するよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った支援を行うようにしている。やむを得ず希望に添えないような場合は、ご本人に何故出来ないのか説明し、納得して頂くようにしている。希望に近い提案を代替案として提案させていただくこともある。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと共に会話をしながら同じ食事を楽しみながらしている。テーブル拭きなどの食事の準備や下膳は、それぞれできる範囲でお願いしたり、自主的にされたりしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望及び時間に合わせて入浴するように努めている。自分で決定できない方は、間隔をみて誘導するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を把握することから、ホームでも継続できることを見つけ出すようにしている。また、いろいろな活動をする中で新しい役割や楽しみを見つけ出してもらえるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関のドアには、鍵をかけておらず、自由に出入り出来る様になっている。自分で歩行可能な方は、新聞をとりに行ったり、庭を見に行ったり、施設の周りを散歩したしている。車椅子の方は、スタッフが介助して散歩や買物に行っている。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込めることによる精神的悪弊害について理解しており、可能な限り鍵を掛けないように取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、それぞれ担当者が組織的に対応できるようにしている。	○	避難訓練を計画的に行うように取り組んでいきます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録用紙に残し、把握するようにしている。その日の体調にあわせて食事量や水分量を調整し、十分な量を確保できるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にカレンダーや絵を飾るなど明るい雰囲気にしたと考えている。玄関花壇、中庭プランターには、季節の花が咲くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、以前使用していた馴染みの家具や身の周りのものを持ち込んで頂いてもよい旨をご本人やご家族に伝えている。以前と違和感がないような環境で過ごして頂けるように努めている。		今後も継続して実施して行く。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	はなまるホーム有馬
(ユニット名)	1階ユニット
所在地 (県・市町村名)	川崎市宮前区東有馬5-21-24
記入者名 (管理者)	稲村 健一
記入日	平成 20年 9月 7日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれた施設を目指し、地域との交流を図るように努力しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念、事業所理念を掲示して理念の共有を図るようにしています。さらに事業所理念に基づいて各フロアーそれぞれの方針を決めています。	○	理念を常に実践できるようにスタッフ一同で努力していきたくと考えています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	企業理念、事業所理念は玄関に、各フロアー方針は各フロアーに掲示して理念を理解していただくように努力しています。	○	地域の方がたくさん訪問して下さるようにして、理念を理解していただくようにしていきたいと考えています。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店での買物や散歩の途中で会った方との挨拶等で近隣との関係を維持したいと思っています。入居前に近隣に住んでいた入居者がおり、その方の友人が施設を訪問されるなど、以前の間関係の維持が出来るよう支援しています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟して、地域の行事の情報を集め、地域の行事に参加するようにしています。	○	今まで以上に地域行事に参加できるように、近隣の方との交流を増やして行きたいと考えています。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居の問い合わせ等があった時に、介護保険のサービス等について、さらに詳しい説明や手続き方法についてアドバイス等を行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を知ることで、どのようなことに取り組みなくてはいけないかという課題を明確にし、それについて対応し改善を行うようにしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、利用者へのサービス、現状報告、評価への取り組み方等の話し合いを行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	神奈川県や川崎市のメールリストに登録し、できるだけ多くの情報を得るようにしています。研修等の案内には、できるだけ参加するようにしたいと考えています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見制度や権利擁護サービスを利用されている方もおり、比較的理解が進んでいると感じています。さらに職員研修等を通じて、最新の情報を提供していきたいと考えています。	○	講演、講習等にスタッフが参加するようにしていきたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々虐待防止法を念頭に置きながら、利用者 に接するように努めています。また、常に虐待防止に関する情報をスタッフに提供するように努めています。	○	講演、講習等にスタッフが参加するようにしていきたいと思っています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明するようにしています。また、理解しづらいような点は、より具体的な説明をするように心がけています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を受けた時は、スタッフで話し合いの上、対応するように努めています。また、それらの苦情等が、その利用者の個人的な問題か利用者全体の問題か判断し、全体的なものは施設全体で解決していきます。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態、金銭管理、職員の移動等について報告しています。金銭管理については、定期的に報告を行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情等を聞き、スタッフ全体で速やかに解決するようにしています。また、家族等ともよく話し理解を進めていただくようにしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のカンファレンス時にスタッフおよび管理者で話し合い、その意見を運営者と管理者で話し合い運営に反映させていくようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に伴い、シフトの変更や他のフロアからの一時的な応援で対応するように勤務調整を行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の維持のために、スタッフの移動については最小限になるよう努めています。管理職は、スタッフとのコミュニケーションに努め、離職に繋がらないように努めています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のレベルアップや昇進のために必要とされるスキルを身につけてもらうため、積極的に研修を受けてもらうようにしています。外部研修の案内を掲示しています。</p>	○	<p>職員が気兼ねなく研修に参加できる環境を整えて行きたいと考えています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>姉妹施設が近隣にあり、情報交換や職員の交流を行うようにしています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>出来るだけコミュニケーションの機会、時間をつくるようにし、意見、不満を汲み取り解決するようにして、ストレスの軽減を図れるように支援しています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者を、管理者は個々の職員を管理し、日々の努力、実績、勤務状況の把握で、向上心ができるように職場環境、条件を整備し働きやすい職場づくりを行っています。</p>		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学、アセスメントを通じて人に面接し、困っていること、不安を感じていることを把握するように努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居依頼のあった段階で、御家族がどのようなことに困っているのか不安を感じているのか把握し、アドバイスするように努めています。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当施設への入居が適切と考えられる方には、サービス内容、提携サービスの説明を行っています。他のサービスが適切だと思われる場合は、紹介するようにしています。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居等を行いサービスに理解をして頂いてから入居して頂くようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人のできること、やりたいことを把握することを行い、施設でも行えるように支援しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のできること、やりたいことやこれまでの生活暦等、ご家族からの情報提供を受け、よりご本人にふさわしい生活が出来ようご家族の協力を得て行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に配慮しながら、本人の意向に基づき家族と本人の関係の維持、良好な関係が築けるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人から生活暦や友人、知人等の情報を把握し、ご家族の協力を得て、訪問や来所をしていただき、関係を維持していただけるように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係、相性を把握し、孤立しないよう行動を共にする機会を設けたり仲裁に入ったりして利用者同士のかかわりあいを支援しています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も機会あるごとに近況についてご家族に伺ったり、ケアマネジャーから近況について知らせていただいたりするよう努めています。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の暮らし方の希望、意向を把握するように努めています。また、コミュニケーションを密にとること、意向をスタッフに話かけやすい雰囲気を作るように心がけています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、同じように生活していただけるように環境整備するよう努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中での一日の過ごし方、心身の状況等については記録に残して把握しています。		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の生活上の課題、希望等をご本人や御家族と話しあい、具体的に実行していくために介護計画を見直し、作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれずに、ご本人の状態の変化に常に対応した計画書を作成するように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当施設独自の書式の用紙を使用して記録を残しています。排泄記録等からトイレ誘導の時間の設定や見直しなどに生かしています。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内の他のサービス(デイサービスなど)のよいところを取り入れたりして、より多機能性を備えるように努力し、多様で柔軟な支援が可能となるように努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の家族や友人、ボランティア、訪問理容などの地域の社会資源を利用、開発するように心がけています。	○	ドックサークルの訪問や楽器演奏のボランティアを受け入れていますが、さらに多くのボランティアを受け入れていきたいと考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームから他の施設(特別養護老人ホーム、介護療養型病床)への移動や在宅への移動に伴うケアマネジャーの紹介等を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの関係されているご入居者に関しては、密に連絡をとるようにしていますが、それ以外の方に関しては、あまり協同する機会が現時点ではありません。今後、入居者が重度化するにつれて多くの接点があり、より協同する必要があると考えています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山本記念病院の系列のやまびこクリニックと契約し、月に2回受診しています。また、入院の必要があるときは、母体の山本記念病院に入院可能な限り受け入れていただく体制をとっています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2階のフロアーに精神科の登戸診療所の往診を受けている方がいることもあり、認知症の状態によっては、精神科の受診につなげています。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護職員が勤務しており、近隣に住居していることもあり、急変等の事態にも対応しています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の日常の様子(食事、排泄など)について病院に情報提供して安心して入院生活が送れる様に努めています。また病院から早めに情報を頂くようにして、退院後の環境整備に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化が予想された段階で、今後の方針についてご家族や医師と話し合いを始め、重度化した場合の対応を始めるようにしています。方針については、カンファレンスを行い共有を進めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期を迎えた入居者のために、吸引機やエアマット等を施設として準備しています。また、医師も看取りについて積極的に支援して下さっています。	○	看取りは、まだ行ったことがないため、医師から看取りについての研修を受けるなどして看取りについて研修の研修を実施したいと思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えにあたり、当施設のケース記録やノウハウを次のケア関係者に引き継ぐように行っています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	声かけをする際は、プライバシー確保のために、よびかけを注意して、		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけをする際は、フレンドを傷つけないように注意しています。また、声かけをする場所についても、話の内容によって場所を居室で行うなどプライバシーに配慮するよう努めています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人のなじみのスタッフが、声かけや問いかけをすることで、利用者の希望の表出や本音を引き出すように配慮しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った支援を行うようにしています。やむを得ず希望に添えないような場合は、ご本人に何故出来ないのか説明させていただき、納得いただくようにしています。希望に近い提案を代替案として提案させていただくこともあります。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ、おしゃれについてはご本人と確認をとりながら更衣時に確認しながら行うようにしています。訪問理容や美容院を希望にあわせて利用しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと共に会話をしながら同じ食事を楽しみながらしています。テーブル拭きなどの食事の準備や下膳は、それぞれできる範囲でお願いしたり、自主的にされています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は、買物同行していたが、ADLの低下によってご本人の希望を聞いて、スタッフが代わりに購入しています。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録により各入居者の排泄パターンの把握に努め、適切な時期に誘導、声かけをするように努めています。失敗してしまった時は、極力傷つけないように配慮しながら処理しています。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望及び時間に合わせて入浴するように努めています。ご自分で決定できない方は、間隔をみて誘導するようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の意志を尊重して休息したり、就寝して頂いております。スタッフの見守りのなかで、休息や就寝して頂いたほうがよい場合には、声掛けさせて頂いておりますが、それでも拒否される場合は、強制することなく、タイミングをみて促すようにしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握することから、施設でも継続できることを見つけ出すようにしています。また、いろいろな活動をする中で新しい役割や楽しみを見つけ出してもらえるように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物はスタッフが代行しています。金銭は、ほとんどが施設側で管理させて頂いております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関のドアには、鍵をかけておらず、自由に出入り出来る様になっています。ご自分で歩行可能な方は、新聞をとりに行ったり、庭を見に行ったり、施設の周りを散歩したりされています。車椅子の方は、スタッフが介助して散歩や買物に行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季にあわせて、花見や紅葉等を見に行ったり、数回にわけて行っています。レストランや回転すし等の外食も行っています。	○	入居者のレベルが下がるに連れて、遠出する機会が少なくなっている。ボランティアを導入するなどして、遠出の機会を増やしていきたいと考えています。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にご本人が自ら電話をすることや手紙を書くこと(年賀)をスタッフが補助しながら支援しています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、訪問時間には、特に刑罰を設けていません。ご家族、友人も都合のつく時間で訪問されています。「また訪問してください」と訪問された方には、声をかけるようにしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的悪影響については、研修などを通じてスタッフ全員が理解するように努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込めることによる精神的悪弊害について理解しており、可能な限り鍵を掛けないように取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時には、必ずノックをして入るなどプライバシーを尊重し、日中は声かけし様子を伺い、夜間は、安全を定期的に確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、マッチ、ナイフなどは、それぞれの入居者の状態に合わせて、ご本人に持っていただいたり、事務所で保管するようにしたりして対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況を常に確認し変化に応じて、対応するようにしています。これまでの事故報告やヒヤリハット、他事業所のヒヤリハット集などを参考にしています。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全てのスタッフが救急救命講習を受講するようにしています。医療機関への連絡網も整備し、適切に対応できるように努めています。	○	新規入職者についても救急救命講習の受講をすすめていきます。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、それぞれ担当者が組織的に対応できるようにしています。	○	避難訓練を計画的に行うように取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予想されるリスクについてご家族に早めに説明しています、又、リスク回避のために活動制限されるような場合は、ご家族にどこまで制限をするか納得いただけるまで説明するように努めています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変発見のため、定期的にバイタルのチェックや食事量、排泄状況の記録をとり確認できるようにしています。少しの異変でも速やかにかかりつけ医に連絡をし、指示を頂くようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に渡される薬剤説明書のファイルをスタッフが確認するように指導しています。薬剤変更の際は日誌等に記入し、スタッフが確認するようになっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食材やメニューを考慮しています。また、個別にヨーグルトや牛乳を飲んでもらうなどそれぞれに対応しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各入居者は、基本的に自分で口腔ケアを行っております。できない方はスタッフが介助して行っています。訪問歯科受診時の指導に基づいて行っています。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録用紙に残し、把握するようにしています。その日の体調にあわせて食事量や水分量を調整し、十分な量を確保できるようにしています。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	公的機関から出されている感染症予防のマニュアルに基づいて対策や勉強をしています。季節に対応してその時々で流行する感染症に対して、啓蒙するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒、賞味期限の確認、食材の使用について、スタッフ間でやりとりをし、新鮮で安全な食材を使用するように管理しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族には、24時間いつでも訪問可能である旨をお伝えしています。友人の方にも気軽に来て頂くようにお話しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にカレンダーや絵を飾るなど明るい雰囲気にしたと考えています。玄関花壇、中庭プランターには、季節の花が咲くようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で過ごせるようにソファを用意しています。日中は、皆さんソファで過ごされていることが多いです。また、畳敷きの場所も用意しており、ひとりで過ごすこともできます。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、以前使用していた馴染みの家具や身の周りのものを持ち込んで頂いてもよい旨をご本人やご家族に伝えています。以前と違和感がないような環境で過ごして頂けるように努めています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は24時間始動させております。空調は温度管理を徹底させています。また季節に合わせて窓を開放しています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>主だったところは、バリアフリーの構造になっていますが、入居者の状態の変化により不都合なところが出た場合は、追加工事などをして可能な限り対応しています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の日頃の行動を観察することで、それぞれのわかる力を把握しておき、起こるであろうと予想される混乱や失敗に対して先に対応策を講じるように努めている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先の花壇に季節の花を植えるなどして季節感を味わって頂けるように工夫しています。</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	はなまるホーム有馬
(ユニット名)	2階ユニット
所在地 (県・市町村名)	川崎市宮前区東有馬5-21-24
記入者名 (管理者)	稲村 健一
記入日	平成 20年 9月 7日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれた施設を目指し、地域との交流を図るように努力しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	企業理念、事業所理念を掲示して理念の共有を図るようにしています。さらに事業所理念に基づいて各フロアーそれぞれの方針を決めています。	○	理念を常に実践できるようにスタッフ一同で努力していきたくと考えています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	企業理念、事業所理念は玄関に、各フロアー方針は各フロアーに掲示して理念を理解していただくように努力しています。	○	地域の方がたくさん訪問してくださるようにして、理念を理解していただくようにしていきたいと考えています。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店での買物や散歩の途中で会った方との挨拶等で近隣との関係を維持したいと思っています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟して、地域の行事の情報を集め、地域の行事に参加するようにしています。		今まで以上に地域行事に参加できるように、近隣の方との交流を増やして行きたいと考えています。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居の問い合わせ等があった時に、介護保険のサービス等について、さらに詳しい説明や手続き方法についてアドバイス等を行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を知ることで、どのようなことに取り組みなくてはいけないかという課題を明確にし、それについて対応し改善を行うようにしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、利用者へのサービス、現状報告、評価への取り組み方等の話し合いを行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	神奈川県や川崎市のメールリストに登録し、できるだけ多くの情報を得るようにしています。研修等の案内には、できるだけ参加するようにしたいと考えています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見制度や権利擁護サービスを利用されている方もおり、比較的理解が進んでいると感じています。さらに職員研修等を通じて、最新の情報を提供していきたいと考えています。	○	講演、講習等にスタッフが参加するようにしていきたいと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々虐待防止法を念頭に置きながら、利用者に接するように努めています。また、常に虐待防止に関する情報をスタッフに提供するように努めています。	○	講演、講習等にスタッフが参加するようにしていきたいと思っています。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明するようにしています。また、理解しづらいような点は、より具体的な説明をするように心がけています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を受けた時は、スタッフで話し合いの上、対応するように努めています。また、それらの苦情等が、その利用者の個人的な問題か利用者全体の問題か判断し、全体的なものは施設全体で解決していきます。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態、金銭管理、職員の移動等について報告しています。金銭管理については、定期的に報告を行っています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情等を聞き、スタッフ全体で速やかに解決するようにしています。また、家族等ともよく話し理解を進めていただくようにしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のカンファレンス時にスタッフおよび管理者で話し合い、その意見を運営者と管理者で話し合い運営に反映させていくようにしています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化に伴い、シフトの変更や他のフロアからの一時的な応援で対応するように勤務調整を行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の維持のために、スタッフの移動については最小限になるよう努めています。スタッフとのコミュニケーションに努め、離職に繋がらないように努めています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のレベルアップや昇進のために必要とされるスキルを身につけてもらうため、積極的に研修を受けてもらうようになっています。外部研修の案内を掲示しています。</p>	○	<p>職員が気兼ねなく研修に参加できる環境を整えて行きたいと考えています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>姉妹施設が近隣にあり、情報交換や職員の交流を行うようになっています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>出来るだけコミュニケーションの機会、時間をつくるようにし、意見、不満を汲み取り解決するようして、ストレスの軽減を図れるように支援しています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者を、管理者は個々の職員を管理し、日々の努力、実績、勤務状況の把握で、向上心ができるように職場環境、条件を整備し働きやすい職場づくりを行っています。</p>		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学、アセスメントを通じて人に面接し、困っていること、不安を感じていることを把握するように努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居依頼のあった段階で、御家族がどのようなことに困っているのか不安を感じているのか把握し、アドバイスするように努めています。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当施設への入居が適切と考えられる方には、サービス内容、提携サービスの説明を行っています。他のサービスが適切だと思われる場合は、紹介するようになっています。</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験入居等を行いサービスに理解をして頂いてから入居して頂くようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人のできること、やりたいことを把握することを行い、施設でも行えるように支援しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のできること、やりたいことやこれまでの生活暦等、ご家族からの情報提供を受け、よりご本人にふさわしい生活が出来ようご家族の協力を得て行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に配慮しながら、本人の意向に基づき家族と本人の関係の維持、良好な関係が築けるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人から生活暦や友人、知人等の情報を把握し、ご家族の協力を得て、訪問や来所をしていただき、関係を維持していただけるように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係、相性を把握し、孤立しないよう行動を共にする機会を設けたり仲裁に入ったりして利用者同士のかかわりあいを支援しています。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も機会あるごとに近況についてご家族に伺ったり、ケアマネジャーから近況について知らせていただいたりするよう努めています。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から本人の暮らし方の希望、意向を把握するように努めています。また、コミュニケーションを密にとること、意向をスタッフに話かけやすい雰囲気を作るように心がけています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、同じように生活していただけるように環境整備するよう努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中での一日の過ごし方、心身の状況等については記録に残して把握しています。		

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の生活上の課題、希望等をご本人や御家族と話しあい、具体的に実行していくために介護計画を見直し、作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間にとらわれずに、ご本人の状態の変化に常に対応した計画書を作成するように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当施設独自の書式の用紙を使用して記録を残しています。排泄記録等からトイレ誘導の時間の設定や見直しなどに生かしています。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内の他のサービス(デイサービス)のよいところを取り入れたりして、より多機能性を備えるように努力し、多様な柔軟な支援が可能となるように努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の家族や友人、ボランティア、訪問理容などの地域の社会資源を利用、開発するように心がけています。		ドックサークルの訪問や楽器演奏のボランティアを受け入れていますが、さらに多くのボランティアを受け入れていきたいと考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームから他の施設(特別養護老人ホーム、介護療養型病床)への移動や在宅への移動に伴うケアマネジャーの紹介等を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの関係されているご入居者に関しては、密に連絡をとるようにしていますが、それ以外の方に関しては、あまり協同する機会が現時点ではありません。今後、入居者が重度化するにつれて多くの接点があり、より協同する必要があると考えています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山本記念病院の系列のやまびこクリニックと契約し、月に2回受診しています。また、入院の必要があるときは、母体の山本記念病院に入院可能な限り受け入れていただく体制をとっています。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の登戸診療所の往診を受けている方がいることもあり、認知症の状態によっては、精神科の受診につながっています。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護職員が勤務しており、近隣に住居していることもあり、急変等の事態にも対応しています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者の日常の様子(食事、排泄など)について病院に情報提供して安心して入院生活が送れる様に努めています。また病院から早めに情報を頂くようにして、退院後の環境整備に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化が予想された段階で、今後の方針についてご家族や医師と話し合いを始め、重度化した場合の対応を始めるようにしています。方針については、カンファレンスを行い共有を進めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期を迎えた入居者のために、吸引機やエアマット等を施設として準備しています。また、医師も看取りについて積極的に支援して下さっています。	○	看取りは、まだ行ったことがないため、医師から看取りについての研修を受けるなどして看取りについて研修の研修を実施したいと思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えにあたり、当施設のケース記録やノウハウを次のケア関係者に引き継ぐように行っています。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	声かけをする際は、プライバシー確保のために、よびかけを注意して、		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけをする際は、フレンドを傷つけないように注意しています。また、声かけをする場所についても、話の内容によって場所を居室で行うなどプライバシーに配慮するよう努めています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人のなじみのスタッフが、声かけや問いかけをすることで、利用者の希望の表出や本音を引き出すように配慮しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿った支援を行うようにしています。やむを得ず希望に添えないような場合は、ご本人に何故出来ないのか説明させていただき、納得いただくようにしています。希望に近い提案を代替案として提案させていただくこともあります。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ、おしゃれについてはご本人と確認をとりながら更衣時に確認しながら行うようにしています。訪問理容や美容院を希望にあわせて利用しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと共に会話をしながら同じ食事を楽しみながらしています。テーブル拭きなどの食事の準備や下膳は、それぞれできる範囲でお願いしたり、自主的にされています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は、買物同行していたが、ADLの低下によってご本人の希望を聞いて、スタッフが代わりに購入しています。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録により各入居者の排泄パターンの把握に努め、適切な時期に誘導、声かけをするように努めています。失敗してしまった時は、極力傷つけないように配慮しながら処理しています。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望及び時間に合わせて入浴するように努めています。ご自分で決定できない方は、間隔をみて誘導するようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の意志を尊重して休息したり、就寝して頂いております。スタッフの見守りのなかで、休息や就寝して頂いたほうがよい場合には、声掛けさせて頂いておりますが、それでも拒否される場合は、強制することなく、タイミングをみて促すようにしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握することから、施設でも継続できることを見つけ出すようにしています。また、いろいろな活動をする中で新しい役割や楽しみを見つけ出してもらえるように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物はスタッフが代行しています。金銭は、ほとんどが施設側で管理させて頂いております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関のドアには、鍵をかけておらず、自由に出入り出来る様になっています。2階の方は、スタッフの同行で散歩に行かれています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ADLの状態のよい方は、四季にあわせて、花見や紅葉等を見に行ったり、数回にわけて行っています。レストランや回転すし等の外食も行っています。	○	入居者のレベルが下がるに連れて、遠出する機会が少なくなっている。ボランティアを導入するなどして、遠出の機会を増やしていきたいと考えています。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にご本人が自ら電話をすることや手紙を書くこと(年賀)をスタッフが補助しながら支援しています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、訪問時間には、特に刑罰を設けていません。ご家族、友人も都合のつく時間で訪問されています。「また訪問してください」と訪問された方には、声をかけるようにしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的悪影響については、研修などを通じてスタッフ全員が理解するように努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉じ込めることによる精神的悪弊害について理解しており、可能な限り鍵を掛けないように取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時には、必ずノックをして入るなどプライバシーを尊重し、日中は声かけし様子を伺い、夜間は、安全を定期的に確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、マッチ、ナイフなどは、それぞれの入居者の状態に合わせて、ご本人に持っていただいたり、事務所で保管するようにしたりして対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況を常に確認し変化に応じて、対応するようにしています。これまでの事故報告やヒヤリハット、他事業所のヒヤリハット集などを参考にしています。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全てのスタッフが救急救命講習を受講するようにしています。医療機関への連絡網も整備し、適切に対応できるように努めています。	○	新規入職者についても救急救命講習の受講をすすめていきます。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、それぞれ担当者が組織的に対応できるようにしています。	○	避難訓練を計画的に行うように取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予想されるリスクについてご家族に早めに説明しています、又、リスク回避のために活動制限されるような場合は、ご家族にどこまで制限をするか納得いただけるまで説明するように努めています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変発見のため、定期的にバイタルのチェックや食事量、排泄状況の記録をとり確認できるようにしています。少しの異変でも速やかにかかりつけ医に連絡をし、指示を頂くようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に渡される薬剤説明書のファイルをスタッフが確認するように指導しています。薬剤変更の際は日誌等に記入し、スタッフが確認するようになっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のために食材やメニューを考慮しています。また、個別にヨーグルトや牛乳を飲んでもらうなどそれぞれに対応しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各入居者は、基本的に自分で口腔ケアを行っております。できない方はスタッフが介助して行っています。訪問歯科受診時の指導に基づいて行っています。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録用紙に残し、把握するようにしています。その日の体調にあわせて食事量や水分量を調整し、十分な量を確保できるようにしています。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	公的機関から出されている感染症予防のマニュアルに基づいて対策や勉強をしています。季節に対応してその時々で流行する感染症に対して、啓蒙するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒、賞味期限の確認、食材の使用について、スタッフ間でやりとりをし、新鮮で安全な食材を使用するように管理しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族には、24時間いつでも訪問可能である旨をお伝えしています。友人の方にも気軽に来て頂くようにお話しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にカレンダーや絵を飾るなど明るい雰囲気にしたと考えています。玄関花壇、中庭プランターには、季節の花が咲くようにしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で過ごせるようにソファを用意しています。日中は、皆さんソファで過ごされていることが多いです。また、畳敷きの場所も用意しており、ひとりで過ごすこともできます。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、以前使用していた馴染みの家具や身の周りのものを持ち込んで頂いてもよい旨をご本人やご家族に伝えています。以前と違和感がないような環境で過ごして頂けるように努めています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は24時間始動させております。空調は温度管理を徹底させています。また季節に合わせて窓を開放しています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>主だったところは、バリアフリーの構造になっていますが、入居者の状態の変化により不都合なところが出た場合は、追加工事などをして可能な限り対応しています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の日頃の行動を観察することで、それぞれのわかる力を把握しておき、起こるであろうと予想される混乱や失敗に対して先に対応策を講じるように努めている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先の花壇に季節の花を植えるなどして季節感を味わって頂けるように工夫しています。</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)